

食品中のアフラトキシン検査結果（令和5年度）

アフラトキシンはアスペルギルス属等が産生するカビ毒の一種です。アフラトキシンには、アフラトキシンB1をはじめB2、G1、G2、M1などのいくつかの種類が存在することがわかっています。なかでもアフラトキシンB1は天然物でもっとも強力な発がん性物質であることが知られ、食品全般に対して総アフラトキシン（アフラトキシンB1、B2、G1、G2の合算）について10 $\mu\text{g}/\text{kg}$ の規制値が設けられています。また、アフラトキシンM1は、アフラトキシンB1に汚染された飼料を摂食した家畜の乳に含まれることが知られ、乳中のアフラトキシンM1について0.5 $\mu\text{g}/\text{kg}$ の規制値が設けられています。

今回は、令和5年5月及び令和6年2月に食品専門監視班が収去した市内流通食品の検査結果を報告します。

令和5年5月にアーモンド、イチジク、クルミ各1検体、ゴマ4検体及びピスタチオ1検体の計8検体について総アフラトキシン（アフラトキシンB1、B2、G1、G2の合算）の検査を行いました。

検査の結果、表1に示すとおり全て不検出でした。

また、令和6年2月に牛乳2検体についてアフラトキシンM1の検査を行いました。

検査の結果、表2に示すとおり全て不検出でした。

表1 総アフラトキシンの検査結果

食品の種類	検体数	検出数	結果 $\mu\text{g}/\text{kg}$	規制値 $\mu\text{g}/\text{kg}$
アーモンド	1	0	不検出	10
イチジク	1	0	不検出	10
クルミ	1	0	不検出	10
ゴマ	4	0	不検出	10
ピスタチオ	1	0	不検出	10
計	8	0	—	—

(検出限界:1 $\mu\text{g}/\text{kg}$)

表2 アフラトキシンM1の検査結果

食品の種類	検体数	検出数	結果 $\mu\text{g}/\text{kg}$	規制値 $\mu\text{g}/\text{kg}$
牛乳	2	0	不検出	0.5

(検出限界:0.05 $\mu\text{g}/\text{kg}$)

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】